

令和6年度 北海道支部総会

高柳本部幹事長にご来道いただき講話を実施

8月17日(土)札幌ガーデンパレスにおいて令和6年度支部総会を開催いたしました。参加者は後述の計11名。開催の週は台風7号の接近が予想され、本部来賓が来道できるか心配しておりました。しかし、無事に到着することができ、ホッとしているところです。

さて、今年度は総会に先立ち、4月にお亡くなりになった増井相談役の冥福を祈り参加者一同で黙祷を捧げました。その後、支部長挨拶に続き、昨年度の事業報告と収支決算報告、監査報告が行われました。会報も予定どおり発行することができました。改めて皆様に感謝申し上げます。

続いて、事業計画と予算について協議いたしました。特に、今年度はコロナ禍によって中断を余儀なくされてきた分会総会の開催について、各分会役員さんと検討した上で実現を目指すことが了承されました。道南・道東・道北分会役員の皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

また、会計につきましては、松苓会本部からの助成ならびに会員からの会費収入をもって支部の運営を執行しておりますが、会費収入が減りますと今後の運営が非常に難しくなってきます。皆様にはぜひ年会費をお納めいただき、会の安定運営にご協力いただきたいと思います。何卒よろしくお願い申し上げます。(年会費は値上げしませんのでご安心を。「カンパ」も絶賛お待ちしております。)

さて、総会審議の後は松苓会本部幹事長・高柳幸雄氏による講話を開催しました。これは、高柳氏と佐賀支部長が同期であるというご縁から実現したものです。「二松學舎大学が創立150周年を迎えるにあたって」と題した講話は、ご自身の学生時代の思い出や職員として大学業務や学生のサポート業務を通じて、「二松學舎大学は学生を大切に作る大学であり、これからもそのような大学であり続けていくに違いありません。」とお話いただきました。

その後の懇談では、それぞれの会員から校舎の変遷や部活動・サークル団体、さらには教授陣や職員さんの思い出等が披露され、楽しく語られました。また、最後は参加者全員で校歌を高らかに歌い上げ、宴たけなわの会はお開きとなりました。

結びに、遠路お出でいただきました本部幹事長・高柳様に満腔の謝意を申し上げます。そして皆様、今年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。



【支部総会参加者 (敬称略)】

来賓 高柳 幸雄 様(49期・本部幹事長・東京都)

会員 奥村 悠二郎(36期・札幌市) 佐賀 敦司(49期・札幌市) 花木 弘(49期・恵庭市)
鈴木 隆(50期・室蘭市) 若松 顕仁(56期・清里町) 吉川 肇(59期・函館市)
松林 豪(59期・旭川市) 吉川 真理絵(60期・函館市) 永田 哲之(65期・苫小牧市)
佐々木 伸(74期・千歳市)

令和6年度 道南分会総会・懇親会を開催

令和6年10月26日、午後6時より「松苓会北海道支部道南分会総会懇親会」が函館市随一の繁華街五稜郭の居酒屋「魚まさ」で開催されました。

長い間、お元気に出席されていた開原正信さん(39期、元厚沢部町立館小学校長)の訃報を受け、黙祷が捧げられました。

「しばらくの間、ご歓談ください。」の間、函館生まれで18歳までと、昭和61年から平成6年3月まで函館北高校に勤務していた私は、若狭一也先輩(39期、元函大柏稜高校)と忘れられない函館の名店の思い出を語り尽くしました。函館駅前にかつてあった蕎麦の「はし膳」の高評価は一致しました。

た。松風町の中華料理店「紅蘭」の調理火力は石炭だった、大門の映画館「巴座」の2階には栈敷席があった等々、往時の函館の繁栄を偲びました。この日の会合の直後、若狭先生の藍綬褒章受章が報じられました(詳細別掲)。

また、函館在住の講談師、荒到 夢形師匠(51期、本名 荒井 到さん)に令和7年1月8日(水)北海道支部新年会での講談二席(うち、一席は新作『三島中洲伝』)をお願いしたところ、快諾いただきました。

懇親会を企画・運営された吉川肇分会長、並びに吉川真理絵幹事のお二人にはいつもお世話になっております。楽しいひとときをありがとうございました。 【支部長 佐賀敦司】



訃報 相談役 増井義昭氏のご逝去

道南分会員としてご尽力された開原氏も

10年以上の長きにわたって支部長を務めていただいた相談役の増井義昭氏のご逝去されました。

増井氏は、支部再建が図られた頃からの中心メンバーの一人として支部発展のためにご活躍いただきました。平成23年度の総会において支部長に就任し、毎年の総会や新年会、各分会総会へもご出席いただき、道内広域にいる会員との交流を深められました。

また、道南分会員として長らく支部・分会の発展にご尽力いただいた開原正信氏もご逝去されました。

開原氏は、道南を中心に勤務され、厚沢部町立館小学校長を最後に定年退職されました。



↑平成28年道南分会での増井氏(後列左端)と開原氏(同右端)

ここに、お二方のこれまでのご功績と支部・分会発展のためにご尽力いただきましたことに対して会員一同感謝を申し上げますとともに、衷心より哀悼の意を表します。

令和7年北海道支部新年会のご案内

会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。さて、昨年4年ぶりに「対面」で開催しました新年会。少人数ではありましたが、ゲストをお招きして有意義な時間を過ごすことができました。

さて、令和7年の新年会につきましては次のとおり開催するべく準備を進めているところです。今回の目玉企画は、当支部道南分会員で函館市在住の講談師・荒到 夢形 先生による講談を二席ねがっております。

つきましては、万障お繰り合わせの上、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております！なお、師匠の上演風景はYouTubeで配信されておりますので、是非そちらもご覧ください！！

▼と き 令和7年1月8日（水）
18時開宴

▼ところ 三川屋会館
札幌市中央区南3条西5丁目17
電話011-231-7400

▼講 談 こうとう むけい 荒到 夢形 先生
（本名 荒井 到、講談師・函館市在住）

▼演 目 「三島中洲伝」・「函館イカ物語」

▼会 費 お一人様5,000円（当日会場にて申し受けます）

▼出 欠 令和6年12月25日（水）までに同封のハガキにて、お知らせください。
締切までの期間が短くて申し訳ありません。

【年会費・寄付金の状況】令和6年7月～11月

○一般年会費（3,000円）小島 政彦（55期）、若松 顕仁（56期）
佐藤 和彦（59期）

○寄付金 若松 顕仁（56期）、齋藤 祐子（59期）、佐藤 和彦（59期）

☆会費ならびに寄付金の納入、誠にありがとうございます☆



ありがとうございます



祝 若狭氏（39期）が藍綬褒章受章

令和6年度 秋の褒章受章者が発表され、道南分会の若狭一也氏（39期・函館市）が、矯正教育功績（永年、篤志面接委員としてご尽力）により藍綬褒章を受章されました。また、北海道新聞の道南函館版では、若狭氏の受章を紹介する記事が掲載されておりましたので、転載いたします。

会員一同、心よりお祝いを申し上げます。おめでとうございます！！

2024年（令和6年）11月3日（日曜日）

北海道 函館

長年の努力に光 秋の褒章・叙勲

2024年秋の褒章と叙勲の受章者がそれぞれ、2、3日付で発表された。道南からは褒章に4人、叙勲に24人が選ばれた。このうち、矯正教育功績と地域総合功労の分野で貢献してきた2人に喜びの声を聞いた。



旭日里光章
地域総合功労
久保田 隆博さん（74）
〓七飯町軍川

藍綬褒章
矯正教育功績
若狭 一也さん（76）
〓函館市鍛冶1



2006年から、受刑者の社会復帰を支える篤志面接委員として活動する。21年からは札幌矯正管区管内篤志面接委員協

受刑者の社会復帰に力

議会の理事や函館少年刑務所篤志面接委員会会長を務め、後輩の相談にも乗ってきた。「受章はびっくりしたが、妻も喜んでくれた」と笑顔を見せる。函館市出身。市内の高校の国語と書道の教員として勤務する傍ら、先輩教員の勧めで篤志面接委員に。函館少年刑務所で希望者を対象に、月2回

消防団と農業委で活躍

1978年から2012年まで七飯消防団で活動し、07年からは副団長も務めた。1990年に七飯町農業委員会の委員となり、2011年から9年間は会長。「消防団でも、農業委でも優れた人に囲まれて幸せだった。受章は最高の喜び。農業者の地位向上に努めてきたことが報われた」七飯町生まれ。大野農業高卒業後、父が経営する久保田牧場で酪農に従事。1975年に同牧場